

日本の酪農が直面している危機は、これまで経験したことのないものです。このままでは本当に国産の牛乳が飲めなくなる状況です。国の緊急支援と長期的な支援が求められます。

エサ代を払うと何も残らない

畜産農家はこれまでにないほどの飼料、燃料、資材高騰により苦しい経営を強いられ、飼料代を払うと何も残らない、「赤字で先がまったく見通せない」の声が全国で広がっています。北海道では肥育の素牛と

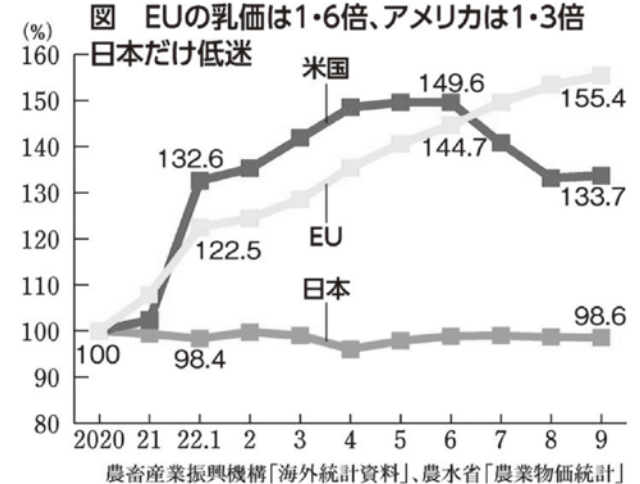
なるホルスタインのオス子牛は110円と最低価格にまで暴落し、買い手がつかない場合、安楽死させる事例も起きています。福島県内でも酪農家数は283戸（2020年）と激減しており、さらなる酪農も危惧されています。

国の補正予算では、今年3月から早期に淘汰した牛に対して奨励金を出すことを打ち出しました。数年前のバター不足を理由に国は、補助金と借金を酪農家に背負わせ増産しろと扇動してきました。今度は牛乳が

余るから牛を殺せとはあまりにも理不尽ではないでしょうか。

今の支援では、焼け石に水

畜産農家の減少は、水田転作物のエサ米、WCS、子実コーンなども行き場を無くし、地域農業全体に大きな影響をもたらします。政府は準備費で1頭1万円の補填をきめたものの、まったく焼け石に水であり、10万円／頭程度の減収補填を緊急に実施、そのうえで、国内自給飼料の抜本的拡大を進めるべきです。11月30日農水省前で行われた畜産危機突破集会には福島県から82戸の緊急要望書を届け一刻も早い直接給付を求めました。



11月30日、農水省前で開催された酪農危機突破集会に参加された、千葉県の酪農家金谷さんの発言です。この内容はYouTubeでも多数視聴されており、ぜひ多くの皆さんへ広げてください。



11月30日、農水省前集会に、子牛と一緒に怒りの発言をする千葉県の酪農家の金谷さん。



12月22日、農水省への緊急要請行動。1,000軒を超える畜産農家の直訴状を届けた。

野村大臣、農水省の方々、今日は「酪農やばいです」と伝えに来た。最近、酪農業界の大変さをテレビやネット、国会でとりあげてくれているが、これはほとんど本当のことだ。しかし、厳密にいうと少しだけ違う。それは、「今日もまた赤字が増えている」ということだ。私たちは毎日生産現場の最前線で赤字を増やして牛乳を生産しているので、何日前のニュースは過去のことだ。北海道で乳牛を1000頭飼っている大牧場の社長が「年間1億円の赤字だ」と言っていた。近所の家族経営の酪農家は「昨日、「エサ代の支払いが480万円だ。また借り入れしないと」といっていた。私の農場では、夏の電気代と燃料代がとんでもなく高くなり、来月の運転資金と合わせて200万円借り入れした。

1日また1日と悪化している。クリスマスも金を借りないといけない。餅代のためにも金を借りないといけない。いつ返せるか分からない借金を増やし続けながら、365日毎日休みなく牛乳を搾っている。「辞めればいいじゃないか」と聞こえそうだが、辞められない。国の「増産せよ」の号令に従って牛舎を建てたり機械を買ったりしているから、辞めて返せるような金額ではない。こんな状態が半年以上続いている。それでも「いつか底が来るだろう」「いつか乳がしっかりと上がるだろう」「子牛や生乳の相場も戻るだろう」と淡い期待を持っていたが、ゆっくりと時間をかけてわかった。希望が見えません。

来年3月からの早期リタイアとか「焼け石に水」の対策金など、まったく当てにならない。今

日の生活さえもままならない。それでも、牛はエサをくれといってくるし、乳を搾ってくれといっている。生きているんだ。モノではないんだ。私はボロもうけしたいのではなく、ただ牛を飼って普通に「ご飯が食べたい。それさえもできなくなり、限界がきている。酪農はやバイです。」

今後継続できる牧場は1割にのまま1年経てば、需給ギャップは解消されるどころか足りなくなる。スーパーの棚から牛乳がなくなる。毎日の食卓から、学校給食からも、牛乳が消える。

牧場がこれだけ潰れたら、当然ながら関係する業者も壊滅する。牧場の従業員、獣医さん、エサ屋さん、機械屋さん、酪農ヘルパー、酪農協の職員、県酪連の職員、指定団体の職員、クラーシテーションの職員、集乳車のドライバー、動物用の薬屋さん、牛の種屋さん、削蹄

師さん、検定員さん、コントラクター、農業高校畜産部の方々、乳業メーカー、酪農教育ファームの方々など：私は今いったすべての人たちの顔を知っている。この人たちに私は謝ることしかできない。みんな仕事を失う。もう一度いう。酪農はやバイです。壊滅の危機だ。野村大臣には今すぐに現場を救ってほしい。でなければ、酪農の火を消した大臣として歴史に名を残すことになる。「検討する」ではなく、今すぐに現場にお金を落とす対応をとってください。

そして消費者のみなさん、国産畜産物の値上がりにご理解いただき、ありがとうございます。みなさまの家計の苦しさは、私たちも同じです。それでも国民の食卓を守るため、また年末年始の牛乳廃棄問題を回避すべく、引き続き消費拡大をよろしく願います。

農民連フラッシュ flash

有機生産者交流会

1月25日、有機栽培を行っている方や、有機農産物の流通を行っている3名の方からお話をうかがいました。講演後はいくつかのグループに分かれ、講演を聞いて出た質問や感想を発表しあい、実際に出了た質問を講演者の方々に回答して頂きました。参加者からは、このような技術交流会をもっと行ってほしい！といった声が多くあがっていました。



要求で広く農民と結びつく農民連を! 第25回定期大会 第25回定期総会

1月17日、18日の両日、第25回定期大会が都内で開催されました。「食料危機を打開し、要求で広く農民と結びつく農民連作りを」をテーマに報告がされ、それに呼応する討論が各県から多数発言されました。



太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- ① 福島市
- ② 約2000～3000㎡の遊休地
- ③ 日当たりがよい
- ④ 宅地、雑種地、林地、原野、農地などの地目の土地



【連絡先】
福島農民連産直農業協同組合 担当：佐々木健洋
Tel 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス：stake@vmail.plala.or.jp